

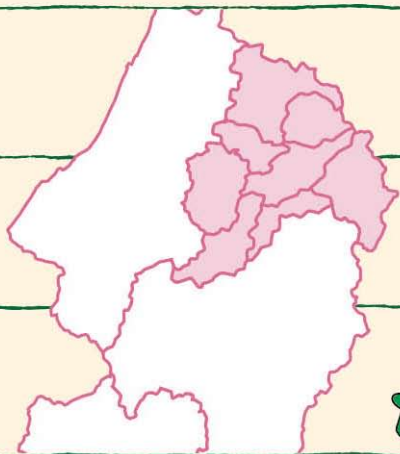
平成25年度

フィールドワーク ハンドブック

共生の森もがみ



自然、環境、文化、歴史、ひと



五感を研ぎ澄ませて「もがみ」を感じる



| | |
|------------------|----|
| 授業開設のメッセージ | 02 |
| 授業計画(シラバス) | 03 |
| フィールドワークプログラムマップ | 05 |

前期プログラム

| | |
|-------------------------------------|----|
| 「日本一の山車パレード・新庄まつり」 ～本物の山車作りに挑戦!～ | 08 |
| 「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界 | 09 |
| 環境保全活動を通じた自然との共生や 循環型社会 | 10 |
| 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る | 11 |
| 山間地の宝物を見つけよう! | 12 |
| 目覚めよ! 谷口銀山 | 13 |
| きらり金山再発見! ～1番人気はどの地域だ!?～ | 14 |
| 冒険家との語らいと特産品づくり・ 奥の細道体験'13 | 15 |
| 里地里山の再生 I | 16 |
| 地域から元気と力を! 差首銅麩校活用プロジェクト | 17 |
| 子ども達の自然体験活動支援講座1 | 18 |
| 美しいむら大蔵村の自然・文化・人にふれる | 19 |
| みやまの里～イベント体験を通して 地域のこれからを考える～ | 20 |
| 戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生き様に学ぶ | 21 |
| 山菜料理と米作り | 22 |
| 夏野菜つくりと郷土料理&そば打ち体験 | 23 |

後期プログラム

| | |
|-----------------------|----|
| お話と語り～図書館祭りに参加しよう～ | 25 |
| 体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」 | 26 |
| 七所明神伝説と地域活動のあり方を探る | 27 |
| 山間地の文化を掘り起こそう | 28 |
| 交流 地域の活力と奥の細道に触れよう'13 | 29 |
| 里地里山の再生 II | 30 |
| 子ども達の自然体験活動支援講座2 | 31 |
| 芋煮&創作ピザ作り及び修験の道探訪 | 32 |
| 冬の里山とたまぎ文化 | 33 |

五感を研ぎ澄ませて 「もがみ」を感じてほしい

山形県最上広域圏は南西に最上川が流れ、大部分が山岳・丘陵地帯の自然豊かで、市町村毎に独自の文化を有する農山村地帯ですが、一方で8市町村のうち6町村が「過疎地域自立促進特別措置法」に基づく過疎地域に指定されています。大学や短期大学などの高等教育機関が一つもない最上広域圏では、長らく大学誘致を悲願としてきました。この要望に応える形で、平成17年4月、山形大学「エリアキャンパスもがみ」は発足しました。

この科目は、地域固有の本物の自然や地域に根差した歴史・文化を活用して、『環境』と『人』とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生諸君に直に感じてもらう科目として企画されました。教育研究施設がないハンディキャップを逆に取り、個性豊かな8つの市町村をそのまま教育のフィールドとするダイナミックな授業は、他に類を見ない授業であり、自然に恵まれた山形大学でしか実現できないものです。また、受け入れ側の各市町村が、地域の特色を表す講師を提供するとともに、授業実施の全般を担当する形で行われることも特長の一つです。

大学のキャンパスから、広大な最上広域圏に飛び出し、自然・環境・文化・歴史・ひとを体全体で感じながら、自らの成長に役立つ何かを見つけてください。五感をとぎすませば、宝物はすぐ近くにあります。最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。

山形大学エリアキャンパスもがみキャンパス長

小白川キャンパス長 那須 稔雄

授業計画(シラバス)

授業科目名: 前期 フィールドワーク-共生の森もがみO (地域学)
後期 フィールドワーク-共生の森もがみP (地域学)

担当教員: 那須 雄徳 (NASU Toshio) 担当教員の所属: 山形大学
開講学年: 1年, 2年, 3年, 4年 開講学期: 前期・後期 単位数: 2単位 開講形態: 演習

授業概要

テーマ
「トトロの木」, 「幻想の森」, 「最上川」など自然豊かな「エリアキャンパスもがみ」でのフィールドワークを通して, 地域, 文化, 歴史, 過疎化, 少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えます。

ねらい
平成17年4月に, 最上広域圏の8市町村をそのまま山形大学のキャンパスとして活動を展開する「エリアキャンパスもがみ」がスタートしました。この科目は, 最上広域圏内そのものを素材にした授業科目として創出されました。この地域を舞台に, 「達人講師」の指導の下, 8市町村選りすぐりのプログラムが展開されます。もがみを知ることは, 山形を知り, 日本を知り, ひいては世界を知ることにつながります。山形大学に来て良かったと思える授業です。

目標
「課題発見能力」, 「課題探求能力」, 「コミュニケーション能力」, 「プレゼンテーション能力」, 「行動力」, 「社会性」の基礎的な力を身につけることを目標とします。

キーワード
エコキャンパス, 地域活性化, 住民との交流, 実地体験, プレゼン能力の向上

授業計画

授業の方法

この授業は, 各自が以下のプログラムから1つを選択して受講します。各プログラムは, 基本的に1泊2日のフィールドワーク(以下「FW」)×2回で構成されます。各回のFW終了後に「活動記録(レポート)」, 2回目のFW終了後に「私はもがみで考えた! (レポート)」を提出してもらいます。また, 授業終了後に「活動報告会」を行います。

- ①「日本一の山車パレード・新庄まつり」～本物の山車作りに挑戦!～(新庄市)
- ②「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界(新庄市)
- ③環境保全活動を通した自然との共生や循環型社会(新庄市)
- ④地域の資源を活かし山屋の魅力を探る(新庄市)
- ⑤山間地の宝物を見つけよう!(金山町)
- ⑥目覚めよ! 谷口銀山(金山町)
- ⑦きらり金山再発見!～1番人気はどの地域!?～(金山町)
- ⑧冒険家との語らいと特産品づくり・奥の細道体験'13(最上町)
- ⑨里地里山の再生 I (舟形町)
- ⑩地域から元気と力を! 差首鍋廃校活用プロジェクト(真室川町)
- ⑪子ども達の自然体験活動支援講座1 (真室川町)
- ⑫美しいむら大蔵村の自然・文化・人になれる(大蔵村)
- ⑬みやまの里～イベント体験を通して地域のこれらからを考える～(鮭川村)
- ⑭戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生き様に学ぶ(戸沢村)
- ⑮山菜料理と米作り(戸沢村)
- ⑯夏野菜づくりと郷土料理&そば打ち体験(戸沢村)

- ①お話と語り～図書館祭りに参加しよう～(新庄市)
- ②体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」(新庄市)
- ③七所明神伝説と地域活動のあり方を探る(新庄市)
- ④山間地の文化を掘り起こそう(金山町)
- ⑤交流 地域の活力と奥の細道に触れよう'13(最上町)
- ⑥里地里山の再生 II (舟形町)
- ⑦子ども達の自然体験活動支援講座2 (真室川町)
- ⑧芋煮&創作ピザ作り及び修験の道探訪(戸沢村)
- ⑨冬の里山とたまぎ文化(戸沢村)

授業日程

①各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査

| | | | |
|----|------------------------------------|----|------------------------------------|
| 前期 | 4月15日(月) 16:30～ 基盤教育2号館 221 講義室 | 後期 | 10月3日(木) 16:30～ 基盤教育2号館 221 講義室 |
|----|------------------------------------|----|------------------------------------|

②オリエンテーション 班編制・顔合わせ・FWの心構えについて

| | | | |
|----|-----------------------------------|----|-------------------------------------|
| 前期 | 5月7日(火) 16:30～ 基盤教育2号館 221 講義室 | 後期 | 10月17日(木) 16:30～ 基盤教育2号館 221 講義室 |
|----|-----------------------------------|----|-------------------------------------|

③FWの実施(プログラムによって実施日程が異なります。6頁参照)

| | | | |
|----|------------------|----|--------------------|
| 前期 | 5月18日(土)～8月9日(金) | 後期 | 10月26日(土)～1月12日(日) |
|----|------------------|----|--------------------|

④活動報告会

| | | | |
|----|------------------------------------|----|-----------------------------------|
| 前期 | 7月26日(金) 16:30～ 基盤教育2号館 221 講義室 | 後期 | 2月7日(金) 16:30～ 基盤教育2号館 221 講義室 |
|----|------------------------------------|----|-----------------------------------|

学習の方法

■**受講のあり方**
安全に気を配りながら, 楽しんでFW活動に臨んでください。

■**予習のあり方**
インターネットなどで事前下調べをして臨めば, FWが爽やかになります。1回目の活動の前に事前学習を, 2回目の活動の前に中間学習を行い, その成果をウェスクラスに書き込んでもらいます。

■**復習のあり方**
各FWの活動報告を丹念に取りまとめてください。その際は, 時系列で整理して, 自分の活動を記録する作業が必要です。専用のレポート用紙への記入と「ウェスクラス」への書き込みにより, 提出してもらいます。

成績の評価

■**成績評価基準**
この授業は, FWでの活動が基本です。事前学習やFW活動記録を丁寧にまとめてください。毎回の活動報告で授業への参加意識を評価します

| | |
|-------------|-----|
| ■ 方法 | |
| FW活動への参加 | 30% |
| 講師の活動評価 | 40% |
| 活動報告会での発表 | 20% |
| 受講生相互評価 | 10% |

テキスト

選択希望調査の際には入学時に配布する「フィールドワークハンドブック-共生の森もがみ」を, フィールドワーク活動の際には, フィールドワークオリエンテーションで配布する「フィールドワークの手引き」, 「フィールドワーク-共生の森もがみ」を携帯してください。

科目の位置付け

教育科目における「山形に学ぶ」という領域の科目です。基盤教育の基本姿勢(人間力を育成し, 自立した個人として社会における責任を果たす態度・志向性を身につける)を最上地方というフィールドで直接的に身につけることができます。

その他

■**学生へのメッセージ**

最上広域圏は, 学生諸君を暖かく迎え入れてくれるでしょう。是非, もがみを見て, 聞いて, 感じて(味わって)、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。

■**履修に当たっての留意点**

大学から最上広域圏までは借り上げバスを利用し, 最上広域圏内の移動は, 各市町村で手配しますので, 自家用車等での参加は認めません。プログラムによっては, 宿泊や実地体験を伴いますので, 参加費が必要となります。(詳細は, 前期4月15日(月), 後期10月3日(木)の「各プログラムの紹介」の欄に説明します。)

■**オフィス・アワー**

オフィス・アワーはありませんが, この授業の運営に協力する小川川キャンパス事務部教務課の事務職員が窓口にあたります。(エリアキャンパスもがみ事務局・小川川キャンパス事務部教務課:023-628-4707)

■**担当教員の専門分野**

金岡物性

フィールドワーク プログラムマップ



前期プログラム

| プログラムテーマ | 開催地 | 1回目 | 2回目 |
|--------------------------------------|------|------------|----------|
| ①「日本一の山車パレード・新庄まつり ～本物の山車作りに挑戦!～」 | 新庄市 | 7月20-21日 | 8月3-4日 |
| ②「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界 | 新庄市 | 5月25-26日 | 7月20-21日 |
| ③環境保全活動を通して自然との共生 や循環型社会 | 新庄市 | 5月25-26日 | 6月29-30日 |
| ④地域の資源を活かし山屋の魅力を探る | 新庄市 | 6月15-16日 | 7月13-14日 |
| ⑤山間地の宝物を見つけよう! | 金山町 | 6月1-2日 | 7月27-28日 |
| ⑥目覚めよ! 谷口銀山 | 金山町 | 5月25-26日 | 7月20-21日 |
| ⑦さらに金山再発見! ～1番人気はどの地域だ!??～ | 金山町 | 8月6・7・8・9日 | |
| ⑧冒険家との語りいと特産品づくり・ 奥の細道体験'13 | 最上町 | 6月15-16日 | 6月22-23日 |
| ⑨里地里山の再生 I | 舟形町 | 5月18-19日 | 6月1-2日 |
| ⑩地域から元気と力を! 差首鍋鹿校活用プロジェクト | 真室川町 | 6月8-9日 | 7月13-14日 |
| ⑪子ども達の自然体験活動支援講座 1 | 真室川町 | 6月1-2日 | 7月13-14日 |
| ⑫美しいむら大蔵村の自然・文化・人に ふれる | 大蔵村 | 5月18-19日 | 6月1-2日 |
| ⑬みやまの里～イベント体験を通して地域 のこれからを考える～ | 鮭川村 | 6月1-2日 | 7月13-14日 |
| ⑭戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生き様に学ぶ | 戸沢村 | 5月25-26日 | 6月29-30日 |
| ⑮山菜料理と米作り | 戸沢村 | 6月1-2日 | 6月29-30日 |
| ⑯夏野菜つくりと郷土料理& そば打ち体験 | 戸沢村 | 6月15-16日 | 7月27-28日 |

後期プログラム

| プログラムテーマ | 開催地 | 1回目 | 2回目 |
|----------------------------|------|-----------|-----------|
| ①お話と語り ～図書館祭りに参加しよう～ | 新庄市 | 10月26-27日 | 11月2-3日 |
| ②体験「ごまかしのない食品づくりに 挑戦!」 | 新庄市 | 10月26-27日 | 11月9-10日 |
| ③七所明神伝説と地域活動のあり方を探る | 新庄市 | 10月26-27日 | 1月11-12日 |
| ④山間地の文化を掘り起こそう | 金山町 | 11月9-10日 | 12月7-8日 |
| ⑤交流 地域の活力と奥の細道に 触れよう'13 | 最上町 | 10月26-27日 | 11月9-10日 |
| ⑥里地里山の再生 II | 舟形町 | 10月26-27日 | 11月9-10日 |
| ⑦子ども達の自然体験活動支援講座 2 | 真室川町 | 11月9-10日 | 12月7-8日 |
| ⑧芋煮&創作ビザ作り及び修験の道探訪 | 戸沢村 | 11月2-3日 | 11月16-17日 |
| ⑨冬の里山とまたぎ文化 | 戸沢村 | 12月7-8日 | 1月11-12日 |



前期プログラム



「日本一の山車パレード・新庄まつり」 ～本物の山車作りに挑戦！～

新庄市



目的・概要

250年以上の歴史を誇る新庄まつりは、国の重要無形文化財指定を受け、その知名度も急上昇した。子どもたちが引く豪華絢爛な山車(やたい)と、お囃子の音色の魅力を実際に体感する中から、その伝統が、地元地域への郷土愛や世代をつなぐ交流によって支えられてきたことを体感してもらう。

新庄まつりの概要を、主会場「ふるさと歴史センター」内の実物展示やスクリーン映像で学ぶ。山車の上に豪華に飾られる人形を何代にも渡って作り続けてきた「野川家」。その現人形師、北山氏による人形作りの実演や、その他の山車製作を実際に体験する。お囃子の生演奏鑑賞の後、カネ、太鼓、笛を実際に体験して、若連作の演奏に加わってセッションすることもできる。新庄まつりの更なる活性化・知名度アップについて提案型協議を行う。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 7月20日、21日

1日目

1. 日本一の山車との出会い
2. 「映像で見る新庄まつり」
3. 視察: 新庄まつりに関わる名所旧跡探訪

2日目

1. 野川家の人形と新庄まつり
2. 山車上の人形胴体作り体験

2 回目の訪問

平成25年 8月3日、4日

1日目

1. 祭りの活性化提案協議
2. 山車づくり体験

2日目

1. 新庄囃子生演奏鑑賞
2. 囃子のカネ、太鼓、笛の実体験
3. 新庄まつりの魅力総括

講師・担当者

| | |
|-----------|------------------|
| 新庄山車連盟会長 | 伊東洋一 |
| 新庄山車連盟副会長 | 川崎昭栄 |
| 新庄山車連盟顧問 | 林 泰夫、野川北山(山車人形師) |
| 新庄山車連盟相談役 | 羽賀千尋 |
| 新庄囃子連盟会長 | 芳賀祐悦 |

昨年の受講生の感想

人文学部 林 以健

新庄まつりのプログラムを通して、新庄まつりの意味と新庄市民の情熱を実感した。実際に山車作りを体験して、豪華な山車ははとでも多くの細かい作業を経て仕上げられたものであることがわかった。素晴らしい新庄まつりをほかの友だちにぜひ見てほしいと思う。今年のまつりは参加できなくて残念だったが、将来台湾から友達を連れて新庄まつりを見に来ようと思う。私たちの小さな力で新庄祭りに役に立てようとする。

担当者 新庄市教育委員会 生涯学習課 外塚 智



目的・概要

1842年の開窯以来、5代にわたり受け継がれてきた新庄東山焼の伝統と芸術性あふれる焼き物の魅力を体験することができる。東山焼ならではの土や釉薬作り、焼き方等を6代目が分かりやすく解説する。ろくろ回し体験や自分の作った作品を記念に残すことができるのも本プログラムの魅力の一つである。

授業計画

▶ 1回目の訪問

平成25年 5月25日、26日

- 1日目**
1. 講義 焼き物の歴史
 2. 山から粘土取り
 3. 匠の実演：ろくろ回し→体験

- 2日目**
1. 各地の有名な焼き物比較
 2. 皿づくり実習
 3. ろくろ回し体験②

講師・担当者

新庄東山焼弥瓶窯 涌井正和

▶ 昨年の受講生の感想 ▶ 人文学部 出雲文佳

四日間を通して、作陶の工程を一通り行い、とても貴重な経験となりました。最終日は焼成を体験しましたが、窯は予想以上に熱く、大変でした。しかし、自分の作品が焼きあがったのを見たときは、大きな達成感や感動を感じました。昼食でも涌井さんの、素材へのこだわりや味へのこだわりを体験しました。今回体験した、新庄東山焼の魅力について周りの人たちに伝えると共に、私自身も涌井さんのように「こだわり」を追求していきたいです。



目的・概要

「川西町河川公園を愛する会」は、町内を流れる川の環境保全活動や河川公園の整備を継続しながら、地域住民の協働や交流が深まるように「水辺のコンサート」を開いている。会のみなさんと一緒に環境保全活動やコンサート運営を体験してもらう。また、「新庄方式」と呼ばれる障がい者就労支援施設を活用した食品トレーリサイクルについて、実際の見学や障がい者との交流を通して学んでもらう。

授業計画

▶ 1回目の訪問

平成25年 5月25日、26日

- 1日目**
- 「河川公園を愛する会」活動概要→指首野川流域視察→交流会

- 2日目**
- 公園整備作業体験→水辺のコンサート準備、運営→振り返り活動

講師・担当者

川西町河川公園を愛する会 会長 江口清治
たんぽぽ作業所 友愛園
(株)最上機工

▶ 2回目の訪問

平成25年 6月29日、30日

- 1日目**
- 障がい者支援作業所見学・体験→リサイクル品製造企業工場見学

- 2日目**
- 新庄方式リサイクルのガイダンス→大手食品スーパーのトレー分別回収体験→環境保全及びリサイクル活動への意見交換会

▶ 昨年の受講生の感想 ▶ 医学部 菊池あかり

今年で第九回を迎えた水辺のコンサートに初めて参加させていただきました。決してそんなに広いというわけではない河川公園に、コンサートの参加者だけでなく地域の方々もたくさんいらしていたのを見て、指首野川および川西町河川公園を愛する会が愛されているということを実感しました。また、指首野川の土流から下流をポイントごとに見ながら下っていくという行程では、やはり下流に行くほどゴミが増えたり水が濁ったりしてくるのをダイレクトに感じることができ、一本の川を見ているという実感がわきました。



目的・概要

山屋地区を舞台に、登山やキャンプ場の整備、ログハウスでのピザ焼などを体験してもらい、また、薬師堂や観音菩薩などの歴史遺産を探索し、当地区のもつ豊かな自然や歴史を学んでもらう。そして、地域住民や子ども達との交流を通して、地域資源を活かした山屋地区の魅力を探ってもらう。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 6月15日、16日

1日目 李蔵山登山→地域との交流

2日目 地域の宝探し→ログハウスでのピザ焼体験→振り返り活動

2 回目の訪問

平成25年 7月13日、14日

1日目 キャンプ場整備→手作り体験→地域との交流

2日目 歴史遺産の視察→まとめ及び提言の発表

講師・担当者

山屋地区有志の会 会長 渡部竹三

New program

担当者 新庄市教育委員会 生涯学習課 外塚 智



目的・概要

道草ぶんこうでは、フィールドワーク受け入れ当初から地域のあるもの探し（自然や環境、伝統行事や食文化、高齢者の知恵や技術等の地域資源調査）に取り組んできました。地元住民は当たり前のもと思っていたものが、学生の新鮮な感覚で地域を捉えた宝物がたくさん集積され、2年前からそれらを活用した郷土検定を実施しています。また、当地区では、人と人とのつながる元気な地域づくりを目指しており、活動の中に可能な限り、子どもからお年寄りまで参加できるように配慮し、学生の皆さんと交流する機会を設定しています。一度訪れたら忘れられない魅力ある地域です。もちろん宿泊はホームステイでお持ちしています。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 6月1日、2日

【講話】 道草ぶんこうの由来
【実習】 昔の伝統田植え体験
【調査】 ピオトープの生き物調査
【調査】 山の幸採取と料理実習

2 回目の訪問

平成25年 7月27日、28日

【実習】 食文化の伝承「蕎麦打ち」
【調査】 安沢地区の視察・調査
【実習】 安沢地区郷土検定へ参画
【提言】 郷土検定のあり方と今後の地域活動について

講師・担当者

道草ぶんこう運営委員会 委員長 遠藤長三郎

担当者 道草ぶんこう運営委員会

昨年の受講生の感想

地域教育 根 愛実
文化学部

初めて金山町を訪れ、まず初めに自然の豊かさに驚いた。自己紹介のときから地元のみなさんの人柄の良さが伝わり、講演では岸さんのお米に対する熱い情熱、努力を聞くことができ、とても感動した。他の人の力をあてにせずに、自分から進んで行動することの大切さ学ぶことができた。田植え体験では思った以上に足をとられた。農家の方たちの手際の良さに驚き、とても楽しく活動することができた。ピオトープでの生き物調査では、教科書でしか見たことのない生き物に出会えたり、初めて見る生き物も多く、改めてたくさん命があふれているのだと思った。



目的・概要

【目的】

往時の絵図を基に、散策道の整備や坑道の復元作業を行うことにより、谷口銀山が繁栄していた当時の様子を探ることを目的とする。

【概要】

谷口銀山の歴史に触れ、それを守っている地域の方々の情熱に触れながら、歴史的な地域資源としての保存・活用を共に探る。もしかしたら新たな鉱脈が発見できるかも？！

授業計画

1回目の訪問

平成25年 5月25日、26日

【講義】 谷口銀山の歴史について

谷口銀山坑道散策
保存会との交流会

2回目の訪問

平成25年 7月20日、21日

吉次山整備作業
保存会との交流会

講師・担当者

谷口銀山史跡保存会 会長 近岡栄一

昨年の受講生の感想 農学部 山本貴子

事前学習で坑道内には、コウモリがいると知っていたので楽しみにしていた。大切箱を探検した時、コウモリは数匹で小さくて可愛らしいと思った。しかし、巻煙草の探索では数えきれないコウモリの大群に圧倒された。

今回のフィールドワーク授業によって、谷口銀山のことや、それに携わる人々の思いを知れたこと、自然の豊かさを実感できたことや地域の方々の優しさや温かさに触れたことは私にとって大きな財産となった。

担当者 金山町教育委員会 沼澤尚史

きらり金山再発見！
～1番人気はどの地域だ！？～

目的・概要

【目的】

地域の人たちと学生の皆さんが一緒になって地域の宝探しをすることで、新たな発見や魅力を掘り起こす。

【概要】

金山町をいくつかの地域に分けて、その地域の人たちとそれぞれ班ごとに地域の宝探しをしてもらいます。そして、この地域の魅力はこれだ！と学生の皆さんからアピールをしてもらい、地域の人たちから一番魅力的だったところを投票してもらい魅力No.1を決めます！

皆さんの視点で金山町の魅力を引き出してください！！

授業計画

訪問日

平成25年 8月6日、7日、8日、9日

【講義】 金山町について

各地域で宝物探し
まとめ作業と補足調査
発表会

講師・担当者

金山町町民
金山町教育委員会

New program

担当者 金山町教育委員会 沼澤尚史

冒険家との語らいと特産品づくり・奥の細道体験'13



目的・概要

奥の細道トレッキングや、地球両極単独徒歩横断歩行の冒険家や、町農業者の人々との交流を通して、地域に根ざす文化や一流人の生きざまについて学ぶことを目的とする。また、奥の細道でも難所では知られる場所をトレッキングをしたり、実際に農業体験を行うことにより、仲間意識や気遣う心を養い、素敵なキャンパスライフを送ることが出来るでしょう！最上町一同、心よりお待ちしております。レッツ奥の細道なう！！ さくらんぼ狩りなう！！

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 6月15日、16日

- ・奥の細道トレッキング (宮城県大崎市～最上町界田)
- ・トマト栽培施設見学

2 回目の訪問

平成25年 6月22日、23日

- ・奥の細道トレッキング(山刀伐峠)
- ・乗馬体験
- ・大場満郎氏との語らい
- ・さくらんぼ収穫体験

講師・担当者

「冒険学校」 大場満郎氏
アスバラ・さくらんぼ栽培農業者 齋藤菊雄氏

昨年の受講生の感想

理学部 矢部成美

奥の細道トレッキングでは、事前学習時に当日は芭蕉が歩きながらどんなことを考えていたかを感じてみようと思ったため、それを意識して歩いた。道の途中で、橋のない沢に石を置いて渡ったり、山の中の道に迷いそうになったり、普段は経験できないことなので楽しかった。また冒険学校に行き、大場満郎さんのお話を聞いた。ご本人の旅の経験はもちろん勉強になったが、旅を通して得た人生の在り方については、とても心に響くものがあった。貴重なお話を聞いて良かった。

担当者 最上町教育委員会

里地里山の再生 I



目的・概要

【目的】
農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得するとともに荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめること目的とする。

【概要】

地域文化と自然資源を活用し、自然環境の保全活動と経済活動の両立を図り、快適かつ生き甲斐のある人生をおくることのできる地域「いやしの里」づくり活動を体験し、パートナーシップ(協働)の手法で地域を再生し自然と共生した農村づくりを共に考える活動。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 5月18日、19日

- 1日目 午前:活動紹介
午後:キノコの植菌体験活動

- 2日目 午前:手倉森・堂ヶ沢地区の保全再生活動
午後:手倉森・堂ヶ沢地区の保全再生活動

2 回目の訪問

平成25年 6月1日、2日

- 1日目 午前:薬師の森保全活動
午後: //

- 2日目 午前:薬師の森保全活動
午後: //

講師・担当者

ブナの美21会員及び農業、林業家などの専門家の皆さん

昨年の受講生の感想

地域教育 李 欣樺
文化学部

2回目の里地里山の再生活動を通じて、いろいろな体験をした。私が外国人として日本の農村を体験することはとてもいい経験だったと思う。舟形町に着いた時に、一番印象深かったのはその景色である。あちこちで緑であり、遠みきった地の中でいっぱい蓮の花が咲いていた。この景色は農村ならではの景色であろうと思う。そして、ブナの美塾という歴史ある建物も深い印象を残した。みんなと一緒にブナの美塾で勉強したり、交流したり、ご飯を作ったことはすごく楽しかった。

担当者 舟形町教育委員会

地域から元気と力を！ 差首鍋廃校活用プロジェクト



目的・概要

平成24年3月に安楽城地区3小学校が統廃合し、廃校となった旧差首鍋小学校は平成25年度から差首鍋地区生涯学習センターとして再出発します。このプログラムでは、地域の方と一緒に地域ならではの魅力や抱えている問題を感じてもらい、そこに学生ならではのアイデアと地域の宝を融合させ、このセンターを活用しながら、地域から真室川町が元気になるような生涯学習センター事業プログラムの作成を地域の方と一緒にしてもらいます。

授業計画

1回目の訪問

平成25年 6月8日、9日

- センターを掃除で交流！
- 山菜料理を作ろう
- 地域で農業体験
- 地域の人とワークショップ

2回目の訪問

平成25年 7月13日、14日

- 地域資源マップ作り
- 地域に伝わる「伝承文化」を体験
- 学生による事業プログラム発表会

講師・担当者

中村温原を守る会 高橋喜久美 ほか数名

昨年の受講生の感想

人文学部 郭 昊天
真室川町に行ったのは本当に楽しかったです。地元の人々は親切だし、子供たちは可愛いし、皆と交流して、いろいろ新しい知識も得ることができました。午後の田植え体験で、足が泥だらけになりましたが、皆と楽しかったです。夕方には、僕らは地元の人々と一緒にもちを作りました。杵は重かったが、その感じがいいと思います。その後、みんなと学校の体育館で作った餅を食べ、とてもいい雰囲気でした。

担当者 真室川町教育委員会教育課 生涯学習・スポーツ担当 新田

子ども達の自然体験活動支援講座1



目的・概要

【目的】
神室少年自然の家企画事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

【概要】
自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、企画事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが変容、成長する手助けすることで、自己を磨いていく。

授業計画

1回目の訪問

平成25年 6月1日、2日

- 企画事業「わんぱく探検隊～春～」
小学3・4年生対象事業の支援
- ・班付きスタッフ
 - ・野外炊飯
 - ・火おこし
 - ・キャンプファイヤー

2回目の訪問

平成25年 7月13日、14日

- 企画事業「わんぱく探検隊～夏～」
1回目と同じ児童対象
- ・班付きスタッフ
 - ・野外炊飯
 - ・ボートでの川上り
 - ・ダイビングなど

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想

人文学部 近江谷健太
今回の活動で子ども達と接していたら自分が小学生だったときのことを思い出してしまいました。そして、今回の子ども達と、自分の小学生時代を思い出して感じたことは、何をしても全力だったということです。だからこそ子ども達はあんなにもパワフルだったのだと思います。そして、今の自分を考え直してみようという気持ちで取り組むということが無くなっているような気がします。これからは、少しでもいいので物事に取り組む機会を増やしていきたいと思えます。この4日間は色々と言葉もありました。しかし、何にも得難い経験ができた実感しています。このプログラムに参加できて本当によかったです。

担当者 山形県神室少年自然の家 研修主事



目的・概要

大蔵村の自然と文化を地域の人々との関わりを通して体験し、自然と共生して生きる人々の生活と知恵を学ぶ。

1 回目は、村の観光パンフレットづくりの学習を行い、肘折温泉で人力車を引き、観光事業に携わっている方から温泉の歴史や散策しながらの観光学習をしていただきます。

2 回目は、平成23年度文部科学大臣賞を受賞した鈴木征一さんによる「肘折こけし」の「絵付け体験」、収穫されたそば粉で「そば打ち体験」の体験づくりの学習を行い、「大蔵村自然塾」では小学生と一緒に森林学習を行います。また、大蔵村伝統芸能・大蔵村指定文化財の巨木等の文化学習及び日本棚田百選に認定された「四ヶ村の棚田」視察学習、縁結びの神として知られる「地藏倉」へのミニ登山などを行い、地域に根づく伝承・伝統行事の体験を通して、大蔵の自然文化について考える機会を与えたい。

授業計画

▶ 1 回目の訪問

平成25年 5月18日、19日

- 村の観光パンフレットづくり
- 人力車体験
- 温泉散策

講師・担当者

合海田植圃保存会 松田与市
肘折こけし工人 鈴木征一
大蔵村観光ガイド 佐藤利夫
大蔵村文化財保護委員 熊谷勝保
味来館そば打ち指導者 須藤千代子

▶ 2 回目の訪問

平成25年 6月1日、2日

- 肘折こけしの絵付け体験
- そば打ち体験
- 「地藏倉」へのミニ登山

▶ 昨年の受講生の感想 ▶ 工学部 矢田目峻輔

今回のフィールドワークで一番楽しく、一番疲れたのは、子供たちの「大蔵村自然塾」です。かつて自分は本当にこうだったのかと疑問に思うほど活発で、呼び止めないとかどこでも行ってしまふ様な小学生たちとの交流は大変なものでした。しかし子供たちと一緒に、普段経験しない自然環境に触れたり、親しく話しているうちに、とても楽しくなっていました。四ヶ村の棚田や地藏倉など、まだまだ書ききれないほどの体験をしてきました。見るもの、触れるものも多くが初めてのものであり、大蔵村での人生の経験として、有意義なものであったと思います。

▶ 担当者 大蔵村教育委員会 社会教育係 佐藤利夫



目的・概要

【目的】

東北をはじめとした日本の各地方は若い世代が地方を離れ、過疎化が叫ばれている。地域の魅力を作っていくためにはどうしたらいいか。また、今後地方が生き残っていくためには何が必要かを地域のイベント体験を通して、これからを担う大学生に考えてもらう。

【概要】

地域資源を活かした独自の集落づくりを行っているみやまの里（木の根坂地区）。地元で毎年6月に行われる「山菜まつり」に積極的に参加してもらい、地域住民と一緒に従事してもらうことで、集落の活性化について学んでもらう。また、地元住民や自然に触れることで里地里山の環境保全を知ってもらい、今後の学生生活に活かしてもらおう。具体的には、●1回目（6月）→みやまの里（木の根坂地区）「山菜まつり」体験。山菜採りから販売までを体験してもらう。●2回目（7月）→みやまの里（木の根坂地区）の蕎麦屋にて蕎麦打ち体験、およびフィールドワークを行う。

授業計画

▶ 1 回目の訪問

平成25年 6月1日、2日

<山菜まつり体験>

- 【講義】 みやまの里（木の根坂地区）について
【実習】 山菜採り体験
【実習】 山菜まつり参加・体験

▶ 2 回目の訪問

平成25年 7月13日、14日

<みやまの里環境調査>

- 【実習】 そば打ち体験～実食
【実習】 みやまの里環境調査
【講義】 地域づくりの大切さについて

講師・担当者

井上クニ子氏
小嶋邦彦氏
※講師は変更の可能性あり。

▶ 昨年の受講生の感想 ▶ 医学部 佐藤貞惟

初めてそば打ちを体験した。山形はそばのうまさで有名なのだが自分たちで打って食べてみるのも楽しかった。河川調査ではきれいな川にしか生き息ないカジカ、ハヤの稚魚などめったに目にかかれない川辺の生物に触れることができた。このような環境は守らなければならないし、今後も本格的な環境調査を続けていかねばならないと思う。

▶ 担当者 鮭川村教育委員会生涯学習係／菅原好一、横山深

戸沢村の超元気印！ 幸齢者集団の生き様に学ぶ



目的・概要

1回目は、幸齢者のみなさんと古代米の田植えやメダカ池の環境整備。2回目はほたるの祭りや炭焼きを行います。特にほたるの祭りについては、企画運営を担っていただきます。これらのプログラムを通して、学生のみなさんには、コミュニケーション能力や企画力、プレゼン能力、協調性等を育む一助となればと思います。地域においては、この事業を実施する上で、地域のいろんな団体、人の協力や知恵が必要となることから、地域の活性化やコミュニティーの再生が図られると思われま

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 5月25日、26日

農作業体験(古代米の田植)
笹まきづくり
めだか保護池の整備
ほたる祭り企画会議

講師・担当者

北の妙創郷大学 学長 菊地清一
乙夜塾 塾長 門脇憲一
古口自治会
古口婦人会
食生活改善団体

担当 戸沢村教育委員会 共育課

山菜料理と米作り



目的・概要

戸沢村角川地域のこれまでの歴史・文化・暮らし・経済の成り立ちを聞き、農山村で生きる人々の知恵や技術、農山村が果たしている役割を学ぶ。手植えによる田植えや、田んぼの草取りなど機械や農業に頼らない昔ながらの米作りを通して、日本人の主食である米について考える機会をもつ。また、農業の楽しさや苦勞を学び食に対する感謝の気持ちを養うことを目的とする。1回目は、モチ苗を手で植える「田植え体験」を行う。山菜採り及びそれを使った弁当づくり、ひめさゆりの植生地「浄の滝」へのハイキングなどを行う。2回目は田んぼの除草作業「田の草取り」、里山に生える新世とモチ米を使った「笹巻きづくり」、稲わらを使った「わらじ作り」を行う。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 6月1日、2日

座学、ソバ打ち体験、田植え体験、
里山散策(山菜採り)、山菜を使った弁当
作り、浄の滝ハイキング、残雪を活用した
デザート作り

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ
角川地区のインストラクターの方

担当 田舎体験塾つのかわの里

2 回目の訪問

平成25年 6月29日、30日

田んぼの草取り、角川の珍珠採取、
笹採り、笹巻き作り、わらじ作り

講師・担当者の感想

農学部 伊藤安里紗
「フィールドワーク共生の森がみ」を通して、私は地元の方々の協力の下、戸沢村の豊かな自然を軸とした素晴らしい魅力を体感することができました。私がこのコースを選択した理由は、田植えや浄の滝ハイキングといったその地の自然を体験できるプログラムと、テーマの「山菜料理と米作り体験」にもあるような食に関わるプログラムの方があったからです。4日間経った今は、それだけではなかったことが分かりました。昔ながらの自然に元気づけられた人の生活、生き方が本場のテーマだとわかりました。わらじは昔の大仕事として何個も個人で持っていて、山菜料理は今も家庭料理として登場し続けていました。人間は自然なしでは生きられない、そのことを強く実感しました。



目的・概要

戸沢村角川地域のこれまでの歴史・文化・暮らし・経済の成り立ちを聞き、農山村で生きる人々の知恵や技術、農山村が果たしている役割を学ぶ。
 当地域で栽培されている夏から秋にかけて採れる野菜づくりに挑戦する。野菜の持つ栄養価はもちろん、滋養効果と郷土料理に隠れた暮らしの文化を学ぶ。
 1回目は、畑づくりや苗の定植、おかひじきの収穫を体験する。また、周辺で栽培されている様々な野菜栽培の状況を見学する。2回目は、収穫した野菜を伝統料理にして味わう体験やソバの種蒔き・ソバ打ちを体験する。また、前段で植え付けした野菜の整枝や側枝の誘因作業を行う。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 6月15日、16日

座学、畑づくり、野菜苗の定植、
 おかひじきの収穫体験、野菜畑の見学

2 回目の訪問

平成25年 7月27日、28日

そば打ち体験、そばの種蒔き、野菜の整枝・
 誘引、野菜の収穫、伝統料理づくり

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ
 角川地区のインストラクターの方々

New program





目的概要

新庄市立図書館の読書推進活動を中心に、本の好きな子どもの育成を目指す読み聞かせサークルや、ふるさとに伝わる昔語りを継承する民話の会の方々と交流を通して、お話語りや紙芝居、読み聞かせの魅力を感じ取る。また、図書館祭りの2日間、運営サポーターとしてスタッフ業務を希望選択して子どもたちや図書館員と交流することができる。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 10月26日、27日

1日目 図書館ガイダンス→図書館祭り参加計画立案

2日目 読み聞かせ・紙芝居体験→視覚障がい者用読書関連機器使用ガイ→図書館祭り準備作業

講師・担当者

新庄市立図書館 館長 高橋一枝
図書館ボランティアサークル かやのみ会 会長 須藤敏枝
新庄民話の会 会長 佐藤榮一

2 回目の訪問

平成25年 11月2日、3日

1日目 図書館祭りスタッフ業務(読み聞かせ、視覚障がい者用機器ブース担当)

2日目 市内散策(民話のとおり巡り)→新庄の民話語り体験→感想交流

昨年の受講生の感想

地域教育 會田晃子
文化学部
今回、お話と語りのプログラムに参加して、図書館の中のことだけでなく、新庄市のよさをたくさん発見することができ、とても充実したものとなりました。
私はフィールドワーク中に新庄の人のよさをとても感じました。図書館の仕組みや歴史などあれこれ教えてくださった館長さん、図書館まわりの運営に参加するための準備から何から手伝ってくださった小野さん、読み聞かせのやり方や新庄市内の案内、民話をお話してくださった須藤さん、「未来を背負うあなたたち、がんばって!」と、声をかけてくださった町の人々などたくさんの方と関わることができ、とても温かい気持ちになりました。

担当 新庄市教育委員会 生涯学習課 外塚 智



目的概要

「ごまかしのない食品」に対する理解を深め、実際の食品製造を体験する。安全安心な食品づくりに関する著書を多数執筆する磯部晶策氏が語る、消費者の立場から食品を見分ける4条件、生産者視点から食品を見分ける4原則などを、講義及び実技を通して学んでいく。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 10月26日、27日

1日目 解説:加工食品の変遷(大量生産へ)→甘味処「悠豆里庵」の品々の実演・実習→餅の製造工程見学

2日目 講義:原材料・表示・添加物の表と裏→こし餡づくり(ごまかしのない食品)

講師・担当者

(有)佐藤製粉社 代表取締役 佐藤勝也
甘味所「悠豆里庵」 店主 佐藤和美

2 回目の訪問

平成25年 11月9日、10日

1日目 講義:食品に関する情報→甘味物実習→餡づくり②

2日目 講義:輸入食品の品質・表示実習:自分で作る甘味物→振り返り(自分の食生活・消費生活)

昨年の受講生の感想

工学部 浜津貴大
私は、この四日間でも多くのことを学びました。これもフィールドワークのお陰です。食品添加物というものを知ることは中学、高校と何度かありました。しかし、机の上だけで勉強では得られるものは少ない。実際に添加物の入っていない食品を自分の手で作り、その味を知ることによって食品添加物の入った食品は、どのようなものなのかということとその味の中から知ることができるのではないかと私は思います。

担当 新庄市教育委員会 生涯学習課 外塚 智



目的・概要

七所明神は、十六代天皇の皇子である大山守皇子の体を七つに斬り、それぞれの部位が祀られているという由来のある神社である。新庄市を中心に七ヶ所の七所明神があるが、その一つが新庄市内宮内地区にある。宮内地区には皇子の頭の部位が祀られているという。そういった七所明神の伝説に触れ、学んでもらい、そして、御祭燈祭りや伝統工芸の制作などを通して、新庄市内宮内地区における地域活動のあり方を探ってもらう。

授業計画

1回目の訪問

平成25年 10月26日、27日

1日目 七所明神について講話→七所明神巡り

2日目 萱刈作業→茅煮→絵馬製作

2回目の訪問

平成26年 1月11日、12日

1日目 御祭燈祭準備→もちつき体験→御祭燈祭

2日目 御祭燈祭後片付け→伝統工芸(はけこ)製作→活動に対する感想と提言

講師・担当者

七所明神の環境を良くする会

昨年の受講生の感想

理学部 星川莉穂
今回初めて御祭燈の準備をさせてもらいました。雪が多く降る新庄では除雪からの作業でとても大変でした。しかし、かまくら作りや餅つき体験など雪国ならではの体験ができてとても良かったです。子ども達との交流では、子どもが少なく男子の子が多かったため、雪合戦をして遊びました。子どもの頃に戻ったようでも楽しめました。



目的・概要

高度成長期の競争社会で、山間地の生活文化から落ちていた、人と人をつないでいた「結いや講」が無くなりつつあります。今、その切れそうになった糸を、もう一度一本一本つなぎ直して、今後、どんなことがあっても切れないようにしていきたいと思っています。そのため、6年前から、地域総合文化祭「さわか祭」と子どもが主役の「なし団子まつり」を開催し、地域住民のつながる地域社会を目指して活動しています。当地区の二大イベントに参加され、皆さんの新鮮な感覚でこのお祭を盛り上げていただき、新たな地域文化を創造していきたいと思っています。皆さんのお志と行動力に期待しています。宿泊は、もちろんホームステイでお持ちしています。

授業計画

1回目の訪問

平成25年 11月9日、10日

【講話】 「さわか祭」について
【実習】 さわか祭の準備
【実習】 さわか祭への参加
【実習】 郷土料理レシピ集の作成

2回目の訪問

平成25年 12月7日、8日

【講話】 伝統行事「なし団子まつり」
【実習】 なし団子まつりの飾りづくり
【制作】 造形遊びの創作活動
【討議】 「地域文化活動の創造に向けた提言」

講師・担当者

道草ぶんこう運営委員会 委員長 遠藤長三郎

昨年の受講生の感想

工学部 大場啓多
今回のフィールドワークへの参加は4回目になりました。前期と違うメンバーとなり不安もありましたが、金山の魅力をみんなで共有することができたためなのか、すぐに仲よくなり楽しく祭りの準備をすることができました。このように人の心を和らげ、自然体になっていることのできる金山は何度行っても素晴らしい所だと思います。そして、祭りの準備という普通では体験することのできないことができて満足しました。



目的概要

俳聖・松尾芭蕉が逗留した町、最上町には芭蕉にちなんだ名所が数多く残ります。その中でも、奥の細道はきれいに整備され、国内外の芭蕉ファンは元よりトレッキング愛好者などからも注目を集めています。その奥の細道を皆さんから実際に歩いてもらうことにより、より一層の連帯感と仲間意識を作りましょう。また、地元の方々と触れ合いながら自然に親しみ、この最上町をとことん味わい尽くして行ってほしいと思います。最上町一同お越しをお待ちいたしております。

授業計画

1回目の訪問

平成25年 10月26日、27日

- ・奥の細道トレッキング (宮城県大崎市～最上町堺田)
- ・東法田地区との交流会

2回目の訪問

平成25年 11月9日、10日

- ・奥の細道トレッキング(山刀伐峠)
- ・民芸品作り(ワラ細工等)
- ・乗馬体験
- ・町内文化施設見学

講師・担当者

東法田地区の皆さん
フラジの会 代表 岸亨氏
最上町教育委員会社会教育係

昨年の受講生の感想

人文学部 鈴木悠希

4日間最上町で過ごし、山々などの豊かな自然と、活動に協力して下さったの方々・地域の方々の温かい人柄に感動しました。最上町の方は満面の笑顔を浮かべながら、山形県出身の私にとっては聞き覚えのある軽やかな方言で、私たちのことを迎え入れてくださいました。最上町の方々の、地元に対する強い思いを感じ、私も地元村山市の良さを大事に伝え、受け継いでいきたいと思います。今回のプログラムに協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

担当者 最上町教育委員会



目的概要

【目的】
農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得するとともに荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめること目的とする。

【概要】
地域文化と自然資源を活用し、自然環境の保全活動と経済活動の両立を図り、快適かつ生き甲斐のある人生をおくることができる地域「いやしの里」づくり活動を体験し、パートナーシップ(協働)の手法で地域を再生し自然と共生した農村づくりを共に考える活動。

授業計画

1回目の訪問

平成25年 10月26日、27日

- 1日目 午前:活動紹介
午後:里地里山の恵み収穫体験活動

- 2日目 午前:里地里山の恵み収穫体験活動
午後: //

2回目の訪問

平成25年 11月9日、10日

- 1日目 午前:里地里山の恵み収穫体験活動
午後: //

- 2日目 午前:里地里山の恵み収穫体験活動
午後: //

講師・担当者

ブナの実21会員及び農業、林家業などの
専門家の皆さん

昨年の受講生の感想

地域教育文化学部 榎本麻子

私は今回二度にわたる一泊二日のフィールドワークを通して、自然や伝統工芸や食といった、その地域文化を継承することの大切さを改めて深く感じた。そもそも私が今回のフィールドワークに参加した理由は、自分が生まれ育った最上への恩返しの一歩にしたいと思ったからであった。しかし今回の活動でも、私は舟形町の自然や地域の方々に沢山のものをいただいたように思う。

担当者 舟形町教育委員会



目的・概要

【目的】

神室少年自然の家企画事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

【概要】

自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、企画事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが寛容、成長する手助けすることで、自己を磨いていく。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 11月9日、10日

企画事業「神室フェスティバル」
参加自由の一般開放事業 2日間開催
・事業運営スタッフ・クラフト・ピザ作り
・ダッチオープン料理・うどん作り など

2 回目の訪問

平成25年 12月7日、8日

企画事業「神室キッズクラブ」
小学3年～6年の児童対象
1泊2日のキャンプ
・班付きスタッフ・しめ飾りづくり
・仲間作りゲーム・郷土料理作り など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想

地域教育 遠藤亜未奈
文化学部

自然体験や子どもたち、地域の方との触れ合いを通して、自己を磨き、成長したいと思い、今回のフィールドワークに参加させていただきました。普段の生活の忙しさから離れ、壮大な自然の中で活動はとても充実していて自分自身の成長を感じる事の出来る四日間でした。

担当者 山形県神室少年自然の家 研修主事



目的・概要

戸沢村角川地域のこれまでの歴史・文化・暮らし・経済の成り立ちを聞き、農山村で生きる人々の知恵や技術、農山村が果たしている役割を学ぶ。

山形県の代表的な郷土料理である芋煮を、レンビの聞き書きから始め、山形を食の部分から学んでいく。また、火燂し体験や飯ごう炊飯、薪ストーブの焚き方などみんなで協力し、そして楽しみながら生きる知恵や技術も同時に学ぶ。

1回目は紅葉時期の「修験の道探訪」や野外での芋煮作りをおこなう。2回目は里山にある材料を使っての「ものづくり」、「畑・山の幸」を薪ストーブを使っての料理、ピザ焼き用窯で「ピザづくり」を行う。

授業計画

1 回目の訪問

平成25年 11月2日、3日

座学、修験の道探訪、野外での芋煮づくり、飯ごう炊飯

2 回目の訪問

平成25年 11月16日、17日

ものづくり、薪ストーブで栗やジャガイモ焼き、ピザ焼き体験

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ
角川地区のインストラクターの方

昨年の受講生の感想

地域教育 鄭 才美
文化学部

初めての山形でも紅葉はすごくきれいだったし、ハイキングしてみた海は見る間に私の気分もすっきりする感じがした。私は来年2月に帰るけど、山形にいるうちにもっと山形のことを知りたいと思ったし、また韓国へ帰って山形でいる間こういう活動をしたことを覚えて韓国で芋煮を作ったりして、山形のことを紹介したいと思った。

担当者 田舎体験塾つのかわの里



戸沢村角川地域のこれまでの歴史・文化・暮らし・経済の成り立ちを聞き、農山村で生きる人々の知恵や技術、農山村が果たしている役割を学ぶ。

里地・里山の生態系とまたぎの知恵と技術の関わりについて学び、また、またぎ猫を通して命について考える機会をもつ。また、遊びや体験・雪かきをとおして冬の里山で暮らすことの厳しさ、そして楽しさを学ぶことを目的とする。

1回目は、狩猟をしている方の講和、カモ猟の見学、カモの解体及びそれを使った「モチ料理」での昼食。また「もの作り体験」も行う。2回目は、積雪地帯ならではの「里山カンジキハイキング」、高齢者世帯の雪かき応援、スノーモービル体験、雪遊びなどを行う。

目的概要

1回目の訪問

平成25年 12月7日、8日

座学、ソバ打ち、またぎの話、カモ猟の見学、カモの解体作業、もの作り体験、もちつき

2回目の訪問

平成26年 1月11日・12日

カンジキハイキング、角川の雪かき応援、スノーモービル体験、雪遊び(雪合戦、クロカン、かまくら作りなど)

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局スタッフ
角川のまたぎのお父さん方

昨年の受講生の感想

医学部 小林陽奈

今回のフィールドワークを通して、地域の人々の温かさを強く感じました。民泊ということで自宅に泊めてくださった人や、休日なのに私たちのためにわざわざごはん作りに来てくれた人、わらじやそばといった物づくりを教えてくださいました人など、多くの地域の人のおかげでさまざまな体験をすることができました。また機会があれば戸沢村に行き感謝の気持ちを伝えたいです。今回フィールドワークに参加できて本当に良かったです。この授業を通して学んだことや感じたこと、考えたことをこれからの生活に生かしていけたらいいと思います。

担当者 田舎体験塾つのかわの里



皆様のお越しをお待ちしております





Fieldwork HandBook Mogami

●エリアキャンパスもがみ 大学事務局

山形大学 小白川キャンパス事務部 教務課教育企画担当

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

TEL:023-628-4707

FAX:023-628-4720

E-Mail: acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●エリアキャンパスもがみ 最上事務局

〒996-0079 新庄市千門町17-26 最上広域教育研究センター内

TEL&FAX:0233-22-1057

●フィールドワークホームページ

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/>

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。